

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表										
法人名	社会福祉法人 松涛会	代表者	斎藤 妙子	法人・事業所の特徴	利用者一人ひとりの人権を尊重し、住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、地域住民との交流や地域活動への参加を図つつ、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、通いのサービス、訪問サービス及び宿泊サービスを柔軟に組み合わせることにより、暮らしを支援します。					
事業所名	小規模多機能 杜の宮	管理者	高根 通真							
出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	1人	1人	人	3人	人	9人
項目	前回の改善計画			前回の改善計画に対する取組み・結果		意見		今回の改善計画		
A. 事業所自己評価の確認	- 自分一人の情報とせず、伝達簿、介護記録に記入したかを当日の職員同士が声掛け確認を行っていく。 - 記載された内容が自分だけの解釈になっていないか他の職員に聞き確認をするようにしていく。			記入漏れや内容について職員同士で確認し、必要があれば訂正等も行った。		- 情報伝達の方法や記録の効率化等、工夫できる点について検討してほしい。 - 各自が持つ「メモ」への記載を習慣づける様にしたらどうか。		- 記入漏れや伝達漏れがないように、職員同士が声を掛け合い確認する。（当日の送迎担当職員や利用者の家族に直接対応した職員には口頭伝達等の伝え忘れが無いか必ず確認する） - タイムリーでなくても当日のリーダーは伝達簿や介護記録への記入漏れが無いか改めて確認をする。		
B. 事業所のしつらえ・環境	- 日頃から職員同士の会話がしやすい雰囲気作りを行なっていく。 - 上司は部下に、先輩は後輩に、積極的に声掛けを行うことで会議においても意見が出やすい状況を作っていく。			- 職員間で雰囲気は良く、意見も出やすい中で情報共有もこまめに行っている。 - ミーティングや会議等において上司や他者の前では苦手意識を持つ職員もいる。		- 具体的なこと等を示して意見を促すことで意見も出やすくなるのではないだろうか。 - 職員間で意見を言える、言いやすいよう配慮を行なってストレスを溜めない環境づくりを心掛けることが大切なのではないだろうか。		ミーティングや会議においては、発言の少ない職員に対しても意見の発言を促したり、意思の確認を行うなどの配慮を進行係や上司が心掛ける。		
C. 事業所と地域のかかわり	- 職員の余裕がある時に少人数でも地域の行事への参加ができるようにしていく。（場合によっては本部への協力依頼する） - 外出場所として杜の宮の庭や安岡八幡宮の周辺を散歩することで地域の人達と出会う機会を作れるようにしていく。			- 地域の行事等は事前に計画し、少人数でも参加する事が出来た。 - 安岡八幡宮や中庭、施設周辺に散歩することで地域の方々との交流も行った。		今後も感染症対策を継続した上で外出行事や地域の行事への参加の機会を増やすことで地域の方との繋がりを継続してもらいたい。		今後も感染症対策を継続しながら、積極的に地域との交流行事に参加していく。		
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	- コロナウィルスの終息が完全でないためガイドラインに沿って外出行事や地域行事に参加できるようにしていきたい。 - 職員の勤務体制が整っていないため外出などができるような勤務体制を整えていきたい。			- コロナウィルス等の感染症対策やガイドラインに沿った上で地域の行事や外出する事が出来た。 - 独居の方の場合は近隣の住民や民生委員から情報収集したり、訪問介護を定期的に行っている。		職員（勤務）体制の検討をしていたいただき、感染症対策を講じた上で行事に参加し、地域との交流の機会を増やす様にしていけたらどうですか。		- 地域の方や民生委員との情報交換も行い、必要ときには協力を仰ぐ。 - 今後も独居の方の場合は近隣の住民や民生委員からの情報収集を行ない、訪問介護を定期的に継続していく。		
E. 運営推進会議を活かした取組み	- 日常業務に追われている現状を把握し、勤務形態等を工夫し負担が減少できるようにしていく。 - リスクが起こる前の段階、予測を考えた会議ができるよう、会議やミーティングを通じて職員間で統一をしていく。			- 勤務形態や利用者の対応については毎月一回行われている職員会議のテーマに取り上げて改善を行った。 2か月毎に開催される運営推進会議には自治会の方、入居者のご家族の代表者、行政や地域包括支援センターの職員に参加してもらい、様々な貴重な意見をいただいている。		連携、協働に向けた対応が出来ていると思う。		運営推進会議に出席出来ない職員も、議事録には必ず目を通し、外部からの貴重な意見を今後の施設の運営や利用者、家族の有益になるように努めていく。		
F. 事業所の防災・災害対策	- 避難訓練は、引き続き近隣の方や自治会の方への参加をお願いしていく。 - 災害時などの相互の協力体制が構築できるようにしていく。 - 状況に応じては杜の宮が地域の避難場所にもなる自覚を持てるようにしていく。			- 施設の避難訓練には地域の方にも立ち会っていただき、様々な意見をいただいている。 - B C P（業務継続計画）に基づいて定期的に災害に関する研修会や訓練が行われている。 - 災害対策として飲料水や紙のコップや皿等の備蓄をしている。		- 近隣なので万が一の場合には、すぐに駆けつける。躊躇することなく利用者の安全に努めてもらいたい。 - 非常ベルは本来なら鳴り続けるため、必ず外にも聞こえるくらいに大きな声で火元を知らせることが重要なので継続してもらいたい。		- 避難訓練は、引き続き近隣の方や自治会の方への参加をお願いしていく。 - 災害時などの相互の協力体制が構築できるようにしていく。 - 状況に応じては杜の宮が地域の避難場所にもなる自覚を持てるようにしていく。 - 今後も万が一に備えて災害、防災対策の為の研修や訓練を継続していく。		